

ADC の記号

<i>Crew</i>	搭乗員数
<i>Fuel</i>	燃料ポイント[20]
<i>Bomb</i>	攻撃力(=爆撃力)[16.12]
<i>Sight</i>	爆撃精度修正
<i>RWR</i>	レーダー警戒装置の能力
<i>JAM</i>	ジャミング力[19.1] (n：雑音式 d：欺瞞式)
<i>Cmbt</i>	戦闘推力
<i>Dash</i>	ダッシュ推力
<i>Mnvr</i>	機動値
<i>LM/H</i>	低高度/中高度/高々度
<i>Cl:</i>	非搭載状態
<i>Ld:</i>	搭載状態
<i>Ordnance</i>	特別な空対地兵器 (#)：発射数
<i>RD</i>	滑走路破壊用爆弾[17.64]
<i>EOGB</i>	電子光学誘導爆弾(ウォールアイ、マーベリック)
<i>Shrike</i>	シュライク
<i>Capabilities</i>	特殊な能力
<i>Recon</i>	写真偵察[24]
<i>Rader</i>	空対空レーダー及びレーダー爆撃[17.33]
<i>Standoff</i>	スタンドオフジャミング[19.3]
<i>Night</i>	夜間航行[23.2]
<i>Air-to-Air</i>	空対空兵器[11.12] (#)：欠乏ナンバー

IAF の ADC 注記

- 1
- MirageIII CJ のレーダー：Cyrano Ibis は、5 ヘクスまで探索/2 ヘクスまで Matra530 を発射できる。稼働率が低いため、探索又はロックオンを行おうとするたびに dr する。偶数で稼働、機数で故障する。1970 年中、レーダーは外されていた。レーダー爆撃に使用できない。
- 2
- Vautour の爆弾攻撃力：長距離では 1、中距離では 2.5、短距離では 4 になる。
- 3
- Vautour II N はスタンドオフジャミングで 2 個の Yabelet ECM ポッドを搭載できる。防御ジャミング 3n を利用できるのはジャミングタスクで ECM ポッドを搭載している場合だけ。
- 4
- F-4 は 1970 年 7 月から ECM ポッドを搭載できる。

追加

EOGB にマーベリックだけを搭載する A-4 及び F-4 の発射可能数は 2 に増加する。

航空機戦闘範囲表 [28.32]

航空機タイプ	落下タンク有り	落下タンク無し
Mirage/Nesher	長距離	短距離
Ouragan	短距離	N/A
MistereIV	中距離	短距離
Super Mistere	中距離	短距離
Vautour	長距離	短距離

短距離：目標がシナイ半島内

中距離：目標がエジプト内でヘクス列 xx14 以上(以东)

長距離：目標がエジプト内でヘクス列 xx13 以下(以西)

スタンドオフジャミング力 [19.31]

航空機タイプ	距 離		
Vautour II N(67-70)	5	10	30
Stratocruiser(73)	6	12	40
ジャミング力	2	1	0.5

航空機から目標のレーダーまでのヘクス数以下の欄のジャミング力が影響する。

例、Vautour II N のジャミング力は 0-5 ヘクスで 2、6-10 ヘクスで 1、11-30 ヘクスでは 0.5 となる。

レーダーから見て、ジャミング機が攻撃を受ける編隊と同じアークにいない場合はジャミング力が半減する[19.31]。

Stratocruiser はマップ外でしか使用できない。

空対空兵器チャート [11.1]

兵器タイプ	種類	戦闘力	利用可能時期
Gun	機関砲	2(3)	-
Matra530	RHM	0	-
Shafrir I	IRM	0	-
R-3S	IRM	2	1967 年 12 月
AIM-9B	IRM	2	1969 年 4 月
AIM-7E-2	RHM	2	1969 年
Shafrir II	IRM	4	1969 年 6 月
AIM-9D	IRM	3	1970 年

注記：MirageIII CJ/Nesher は精巧な照準器を装備していたため、機関砲の戦闘力が 3 になる。

各航空機の特別注記

Dassault Ouragan MD.450

初期のフランス製ジェット戦闘機の中で最も優秀なものであった。スエズ戦争(1956 年)でイスラエル軍に装備されたこの機は、六日間戦争(1967 年)にも 51 機*が参加した。
*付録の戦力表では 40 機となっている。

利用可能時期：
1955 年 1 月～1973 年 1 月
注記：
スラッシュ攻撃[11.52]を行えない。

Dassault Mystere IVA

後退翼が特徴的なフランス製戦闘機。当初、迎撃機として使用されたが、六日間戦争では Mystere を装備する 2 個飛行隊が近接航空支援任務に就いた。

利用可能時期：
1956 年 5 月～1971 年 2 月
注記：
スラッシュ攻撃[11.52]を行えない。
滑走路破壊用爆弾[17.64]を搭載できる。

Dassault Super Mystere B.2 / Sa'ar (IAF のニックネーム「Sambad」)

西側ヨーロッパ初の超音速戦闘機。迎撃、近接航空支援機 MystereIVA の後継機であった。迎撃任務は MirageIII CJ に取って代わられたが、対地攻撃機として働き続けた。エンジンを A-4H の J52 に換装してテイルパイプが伸びたおかげで IRM に対する脆弱性が低下した。この型を「Sa'ar」と呼んだ。

利用可能時期：

SMB.2 1959 年 12 月～

Sa'ar 1969 年～1973 年 (26 機を SMB.2 から換装)

注記：

SMB.2/Sa'ar は滑走路破壊用爆弾[17.64]を搭載できる。

IRM の攻撃を受けるとき、Sa'ar は射撃解決表[11.33]で - 2DRM が適用される。SA-7 の修正[14.64]も適用されない。

Dassault MirageIII CJ / RJ (IAF のニックネーム「Shahak」 Skyblazer)

圧倒的な戦果を上げ、イスラエル空軍で最も有名な戦闘機。空対空ミサイルを装備した初の IAF 戦闘機であった。イスラエル軍のエンジニアは照準器を改良し究極の武器にした。

利用可能時期：

1962 年 4 月～

注記：

MirageIII CJ のレーダー： Cyrano Ibis は、5 ヘクスまで捜索/2 ヘクスまで Matra530 を発射できる。稼働率が低いため、捜索又はロックオンを行おうとするたびに dr する。偶数で稼働、機数で故障する。1970 年中、レーダーは外されていた。レーダー爆撃に使用できない。

MirageIII RJ： 2 機の RJ を利用できたが、イスラエル軍は通常の MirageIII CJ に 6 種類の偵察用ノーズコーンを取り付け使用した。

側方カメラ[24.11]を使用できる。

滑走路破壊用爆弾[17.64]を搭載できる。

超音速落下タンク[20.1]を利用できる。

IAI Nesher S「Eagle」

Nesher は引渡しを拒否された MirageV をイスラエルがコピーしたものとされている。航空機は秘密裏にフランスから提供された。MirageIII CJ からの改良点は、燃料及び兵器搭載量の増加であるがレーダーは割愛された。

利用可能時期：

1971 年 5 月～

注記：

滑走路破壊用爆弾[17.64]を搭載できる。

超音速落下タンク[20.1]を利用できる。

Sud Vautour II A/N/BR

フランス製ジェット黎明期の実に優秀な航空機であった。イスラエル軍では単座の攻撃機型 II A が最も多く使用された。II N 型は夜間航行能力を持ち、EW ポッドも搭載できた。II BR 型は写真偵察機である。

利用可能時期：

II A/N/BR 1958 年 5 月～1972 年 4 月

注記：

スラッシュ攻撃[11.52]を行えない。

II A/N は滑走路破壊用爆弾[17.64]を搭載できる。

II N は、ジャミングタスクで 2 個の Yabelet ECM ポッドを搭載できる。防御ジャミング 3n を利用できるのはジャミングタスクで ECM ポッドを搭載している場合だけ。ジャミングタスクでは爆弾を搭載できない。夜間航行能力を持つ。

II BR は、夜間航行及び写真偵察能力を持つ。偵察形態では落下タンク無しで長距離の任務を行える。

Douglas A-4 Skyhawk (IAF のニックネーム「Ayt」 Vultuer)

1952 年、アメリカ海軍の要求に対し半分の自重で膨大な兵器搭載量を誇ったことで有名な機体である。イスラエルはこの傑出した攻撃機を 2 番目に多く採用した国である。A-4 は長期に渡り対地攻撃の主力として働き続けた。

利用可能時期：

A-4H 1968 年後期～

A-4E 1969 年～

A-4N 1972 年後期～

注記：

スラッシュ攻撃[11.52]を行えない。

A-4E は RWR 無し、A-4H は RWR A を持つ。

Egrot(SEAD)又は武装護衛タスクの A-4 はシュライクを搭載すると爆弾の攻撃力が 1(E/H)又は 2(N)に減少する。

EOGB にマーベリックだけを搭載する場合、発射数は 2 に増加する。

McDonnell Douglas F-4E Phantom II (IAF のニックネーム「Kurnass」 Sledgehammer)

60 年代の最高傑作機であり、歴代の戦闘機の中でも最も優れたものの 1 つである。この機の巨大な搭載量とレーダー誘導のスパローミサイルによって、イスラエルは長距離侵攻及び強力な撃墜能力を得た。

利用可能時期：

F-4E(Early) 1969 年 9 月～

F-4E(LES) 1972 年 12 月～

RF-4E 1969 年 9 月～

注記：

F-4E は夜間航行及びレーダー(空対空/レーダー爆撃)能力を持つ。

前期型(Early)とは前縁スラット(LES)を装備する前の型である。

F-4 は 1970 年 7 月から ECM ポッドを利用できる。

爆撃、打撃/CAP、SEAD 又は武装護衛タスクの F-4 は AIM-7 の欠乏ナンバーが 2 増加する。

EOGB にマーベリックだけを搭載する場合、発射数は 2 に増加する。

ADC の記号

<i>Crew</i>	搭乗員数
<i>Fuel</i>	燃料ポイント[20]
<i>Bomb</i>	攻撃力(=爆撃力)[16.12]
<i>Sight</i>	爆撃精度修正
<i>RWR</i>	レーダー警戒装置の能力
<i>JAM</i>	ジャミング力[19.1] (n：雑音式 d：欺瞞式)
<i>Cmbt</i>	戦闘推力
<i>Dash</i>	ダッシュ推力
<i>Mnvr</i>	機動値
<i>LM/H</i>	低高度/中高度/高々度
<i>Cl</i>	非搭載状態
<i>Ld</i>	搭載状態
<i>Ordnance</i>	特別な空対地兵器 (#)：発射数
<i>RD</i>	滑走路破壊用爆弾[17.64]
<i>Capabilities</i>	特殊な能力
<i>Recon</i>	写真偵察[24]
<i>Rader</i>	空対空レーダー及びレーダー爆撃[17.33]
<i>Standoff</i>	スタンドオフジャミング[19.3]
<i>Night</i>	夜間航行[23.2]
<i>ASM</i>	空対地ミサイル
<i>Air-to-Air</i>	空対空兵器[11.12] (#)：欠乏ナンバー

EAF の ADC 注記

- 1

搭載できる空対地兵器はロケット弾[17.63]に限られる。
- 2

後方機銃(Rear Gun)では空対空戦闘を開始できない。
- 3

RWR A は 1969 年から利用できる。
- 注意：

CAP タスクでシナリオ中にオープン飛行場から離陸させる編隊を除き、EAF 機は全て落下タンクを搭載する。もちろん、CAP タスク機に落下タンクを搭載させても良い。

空対空兵器チャート [11.1]

兵器タイプ	種類	戦闘力	利用可能時期
Gun (Pod)	機関砲	2	-
Rear Gun ²	機関砲	0	-
R-3S Atoll	IRM	2	-
Gun (H)	機関砲	3	Hunter

各航空機の特別注記

MiG-17F Fresco C

ミサイルを搭載しない亜音速の戦闘機 MiG-17 は他の航空機に比べ完全に時代遅れのものと思われていた。しかし、その扱いやすさから対地攻撃機としてまだ十分に働けた。MiG-17 は低高度域で最も使用され、そこではイスラエル軍戦闘機とも互角に戦えた。しかし、高い高度におびき出されたときには格好の餌食となった。

利用可能時期：
1955 年 1 月～

注記：
爆弾、ロケット弾、滑走路破壊用爆弾[17.64]を搭載できる。
スラッシュ攻撃[11.52]を行えない。

MiG-19S Farmer C

MiG-19 及び中国製コピーの J-6 は機関砲とミサイルを装備した超音速戦闘機である。高度な整備が求められ度重なる故障からエジプト空軍の主力になれず、より高性能で信頼性のある MiG-21 にとって代わられた。

利用可能時期：
1961 年夏～

注記：
搭載できる空対地兵器はロケット弾[17.63]に限られる。

MiG-21 Fishbed

MiG-21 は最も多く製造され、エジプト軍に引き渡された超音速ミサイル搭載戦闘機で、イスラエル軍機と互角に戦えた。多くのバリエーションが存在する MiG-21 はエジプト軍戦闘機の主力であった。防空から対地攻撃そして偵察まで全ての任務をこなした。

利用可能時期：
MiG-21F-13 Fishbed C 1961 年～
MiG-21PF Fishbed D 1965 年～
MiG-21PFM Fishbed F 1967 年～
MiG-21MF Fishbed J 1970 年 3 月～
MiG-21R Fishbed H 1965 年～

注記：
MiG-21R 偵察機は機首に 3 台のカメラを搭載した。自衛のために Atoll IRM を搭載できる。
MiG-21F-13, PF, PFM, MF は滑走路破壊用爆弾[17.64]を搭載できる。
MiG-21PF, PFM は通常の爆弾を搭載できないが、ロケット弾[17.63]を搭載できる。

Su-7BMK Fitter A

Su-7 は MiG-17 の後継機として設計された戦闘爆撃機である。航続距離が短く兵器搭載量も少ないため、作戦上まったくの期待外れに終わった。

利用可能時期：
1967 年～

注記：
偵察型は機関砲を取り外し、偵察ポッドを搭載する。
爆弾、ロケット弾、滑走路破壊用爆弾[17.64]を搭載できる。

IL-28 Beagle

エジプト軍へ最初に導入されたジェット爆撃機。機体後部の通信手兼後方機銃手を含む 3 名が搭乗する。爆撃機としての有効性に限界があった。

利用可能時期：

1956 年～

注記：

夜間航行能力及び後方機銃を持つ。

Su-20 Fitter C

ソ連の技術者は Su-7 を可変翼にし新エンジンに換装して性能を向上させた。Su-7 に比べ、航続距離及び兵器搭載量が大幅に向上した。

利用可能時期：

1972 年～

注記：

爆弾、ロケット弾、滑走路破壊用爆弾[17.64]を搭載できる。

Mirage 5DE

Mirage 5 は、燃料搭載量を増やした昼間戦闘機としてイスラエルの要求で製造された。元々は昼間の攻撃任務に重点を置いていたが、アビオニクスの変更で空戦任務にも対応した。Mirage 5DE はリビアへ売却された輸出バージョンであるがエジプト軍のパイロットが 73 年の戦争で使用した。

利用可能時期：

1973 年～

注記：

爆弾、ロケット弾[17.63]を搭載できる。
73 年の戦争では空対空ミサイルを搭載しない。

Hunter FGA.Mk59 / FR.Mk59B

Hawker Hunter は二次大戦後のイギリス製で最も成功したジェット機で、1972 機が製造された。イラク空軍の 1 個スコードロンが 73 年の戦争でエジプト軍に加わり、対地攻撃及び偵察任務を行った。

利用可能時期：

1963 年～

注記：

FR.Mk59B 偵察機型は両側を撮影する 2 台を含む 3 台のカメラを搭載した。偵察任務でも機関砲を残していた。

FGA.Mk59 攻撃機型は爆弾、ロケット弾[17.63]を搭載できる。しかしながら 73 年の戦争では、ロケット弾だけを使用した。

爆撃及び偵察タスクでは落下タンクを搭載しない。

L-29 Delfin

ソ連製の練習機であるが、73 年の戦争で攻撃任務に用いられた。ロケット弾ポッドを搭載した。

利用可能時期：

1963 年～

注記：

ロケット弾[17.63]だけしか搭載できない。

AS-5 Kelt

AS-5 空対地ミサイルは小型の超音速液体燃料ロケット推進巡航ミサイルで、重量は約 7760 lbs (3520 kg)。エジプト軍は、イスラエル軍の迎撃範囲の外から Tu-16 Badger 爆撃機を使いこの ASM を発射した。通常 2 発ずつ発射した。

利用可能時期：

1966 年～

注記：

シナリオ EV14：Operation Badr の SSR#5 を参照。